

# 小中一貫校開始及び複式学級解消(案)について

これまでの保小中の一体的な取組を推進するため、また、保護者の皆様が不安に感じておられる複式学級の解消に向けて、案を作成しましたので、この度ご提示します。

多くの方にご意見をいただきながら進めていきたいと思っておりますのでご協力をよろしくお願いします。

## 資料の内容は

- 来年度からの小中一貫校開始に向け、小中一貫校に関する説明
- 複式学級解消の方法(小中一貫校に伴う加配教員により複式学級を解消)

# 小中一貫校について

## 具体的な内容

- 小中9年間の系統性を踏まえた学習活動（例：北川学）
- 乗り入れ授業（例：中学校教員による小学校での教科指導）
- 小中合同研修会（例：学力分析研修会、道徳講師招聘研修）
- 小中合同行事（例：運動会、小中統一参観日）
- 小中共通の学校目標や研究主題の設定
- 小中の校時を揃える（例：1・3校時の始まりを合わせる）
- 校長1名体制による経営ビジョンの統一化
- 小中一貫加配教員による地域の実情に沿った運用  
（例：小学校の複式完全解消、中学校の教科指導の充実）

# 小中一貫校について

## メリット

- 乗り入れ授業や小中合同行事等により小中間の交流が増え、中学校入学時の段差（いわゆる中1ギャップ）を抑えることができる。
- 教科の専門性のある中学校教員が小学校で授業を行うことにより、学力や学習意欲の向上が期待できる。
- 特に小規模の小学校において、多様な教員が指導に関わることにより、子どもの良さを多面的に評価することができる。
- 小中の教職員同士の情報共有が図られ、効果的な指導が展開できる。
- 小学生の中学校へのあこがれや期待感が育まれる。
- 小学生と関わることにより、中学生の自立や責任感が育まれる。
- 小学生が中学校の部活動に参加しやすくなる。
- 小中一貫加配教員による地域の実態に即した運用が可能となる。

# 小中一貫校について

## 小学校の複式学級編制基準

- **1・2年生** → 2学年合計 8名まで が複式学級
- **2・3年生以上** → 2学年合計 16名まで が複式学級

# 小中一貫校について

## 北川小の複式学級

### 複式学級の解消方法

- ① 教頭が担任を受け持つ
- ② 加配教員(+1名)が担任を受け持つ

令和元年は①の教頭による複式解消を実施

| 令和元年 | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | 情緒 | 合計 |
|------|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 児童数  | 9  | 5  | 6  | 9  | 8  | 9  | 5  | 51 |
| 担任   | 土居 | 久田 | 矢野 | 大坪 | 溝渕 | 松岡 | 牛窓 |    |

# 小中一貫校について

## 北川小の複式学級

令和2年度は2つの複式学級ができる予定

| 令和2年 | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | 情緒 | 合計 |
|------|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 児童数  | 7  | 9  | 6  | 6  | 9  | 8  | 5  | 50 |

# 小中一貫校について

令和2年度：今年同様、教頭で1つ複式を解消した場合

①複式学級担任Aが全ての教科を受け持つ(複式解消なし)

| 令和2年度  | 国語 | 算数 | 理科 | 社会 | 生活 | 総合 | 音楽 | 体育 | 図工 | 学級会 |
|--------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|
| 小学校2年生 | A  | A  | A  | A  | A  | A  | A  | A  | A  | A   |
| 小学校3年生 | A  | A  | A  | A  | A  | A  | A  | A  | A  | A   |

10月に小学校が説明した方法

②複式学級担任A以外の**在籍教員BC**で、一部の教科を単式化

| 令和2年度  | 国語 | 算数 | 理科 | 社会 | 生活 | 総合 | 音楽 | 体育 | 図工 | 学級会 |
|--------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|
| 小学校2年生 | A  | A  | A  | A  | A  | A  | A  | A  | A  | A   |
| 小学校3年生 | B  | B  | C  | C  | A  | A  | A  | A  | A  | A   |

小中一貫校の加配により解消する方法

③小中一貫**加配教員D**により、複式を解消

| 令和2年度  | 国語 | 算数 | 理科 | 社会 | 生活 | 総合 | 音楽 | 体育 | 図工 | 学級会 |
|--------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|
| 小学校2年生 | A  | A  | A  | A  | A  | A  | A  | A  | A  | A   |
| 小学校3年生 | D  | D  | D  | D  | D  | D  | D  | D  | D  | D   |

# 小中一貫校について

## 課題や求められること

- 一貫校初年度は、合同行事や乗り入れ授業、職員会の持ち方等の小中学校間の調整が必要となる。
- また、特に行事などについては、保護者への事前の丁寧な周知が必要となる。
- 校長が1名体制になることにより、きめ細やかな管理職の対応が求められる。
- 保護者のみならず、地域住民や議会、各種団体等に対して周知を行う必要がある。



# 小中一貫校について

## 導入した場合に確実に変わること

- 乗り入れ授業が本格的に始まること。
- 校長が1名になること。
- 小中一貫加配教員の配置により複式学級が完全に解消されること。
- 小中共通の学校目標・研究主題が設定されること。

## 変わる可能性があること

- 小中合同学校行事（運動会その他、例えば道徳参観日や学習発表会等）
- 小中教員の合同研修会（指定事業関係その他、学力調査分析や道徳等）
- 校時の調整・変更（乗り入れ授業や合同行事を実施しやすくするため）